

2024年

L A Y 見切り
施工要領書

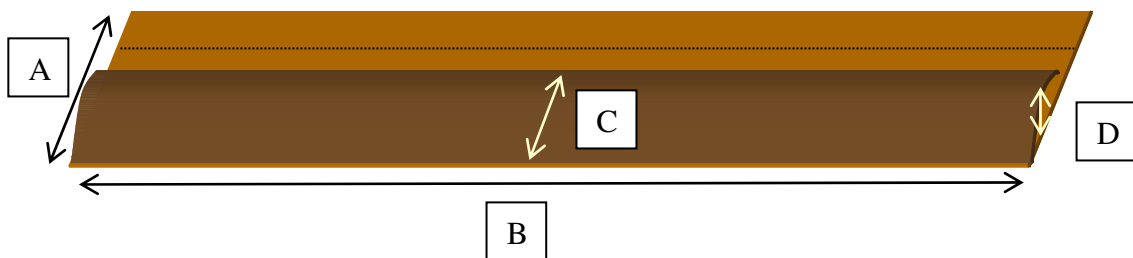
東リ株式会社
C S 環境室

◆施工にあたっての注意点◆

- L A Y見切りは、掃き出し窓部のサッシ見切り材として開発されたものです。頻繁に踏まれる箇所へ施工されると、割れやへこみ等が発生する場合があります。
- L A Y見切りの施工は、L A Yフローリング、クラシアルタイルの施工に先立って行ってください。接着剤塗布後に行うとテープの粘着強度が十分に発揮されません。
- 施工時の室温は、10℃以上で一定になるように維持してください。
- L A Y見切りは裏面に両面テープを貼り付けてありますが、必ず瞬間接着剤と併用してください。L A Y見切りは、温度変化により伸縮します。瞬間接着剤が塗布されていない場合は、反ったり剥がれたりすることがあります。
- 温度変化による伸びを考慮し、両側1.0mm程度(片側0.5mm)透かすように割り付けてください。

1. 材料規格

寸法 : A 23.5mm B 2100mm C 10.0mm D 4.0mm



2. 使用工具・副資材等

(1) カッターナイフ	(2) 直線定規	(3) メジャー
(4) 瞬間接着剤（ゼリー状）	(5) ハンドローラー	(6) 下敷き（ステンレス製）
(7) モールカッター	(8) 木材用パテ	(9) 養生テープ
(10) その他		

3. 下地の注意点

(1) 適応下地 モルタル、コンクリート、クッションフロア、フローリング、合板

(2) 下地の条件

平滑で湿気のない、堅牢な下地に施工してください。不陸があると、おさまり不良の原因になります。ゴミ、ホコリ等は完全に除去してください。接着不良の原因になります。

モルタル・コンクリート下地

- ① ケット社水分計「H I -520-2」の測定値がDモードで 440 未満の下地且つ、大きな亀裂やえぐれた穴などが無いこと。
- ② ザラメや粉拭きの無い強固な下地であること。

クッションフロア下地

- ① 床にしっかり固定されていること。
- ② すき間がないこと。
- ③ 油、ワックス等のコーティング、汚れがないこと。

フローリング下地

- ① 床にしっかり固定されていること。
- ② 継ぎ目部分および壁際との間に隙間がないこと。(隙間がある場合は、パテ等で補修すること)
- ③ 油、ワックス等のコーティング、汚れがないこと。
- ④ 段差のないこと。

注 2：0.3mm 以上の段差がある場合は、ディスクサンダーやサンドペーパー等で平滑にしてください。

合板下地

- ① 床にしっかり固定されていること。
- ② すき間がないこと。
- ③ 油、塗料等による汚染がないこと。

注 3：隙間は、パテ等で平滑に補修してください。

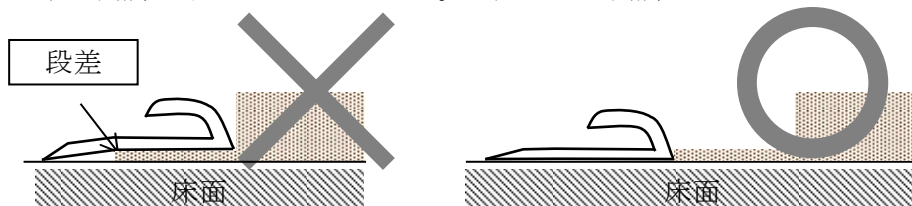
4. 施工の手順

(1) 材料の搬入、保管

乾燥した室内の平坦な床面に横に寝かせて保管してください。(縦置きすると紙管が曲がり、材料が破損する場合があります。) また上に物を載せないでください。

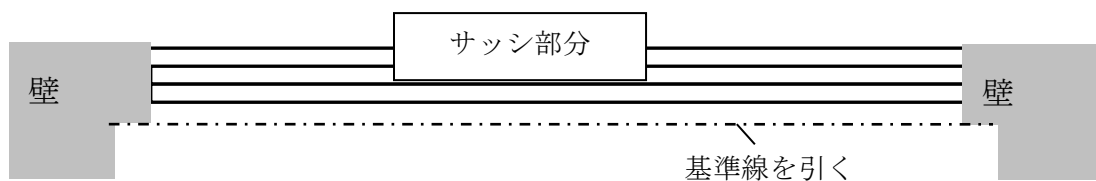
(2) 取り付け位置の確認

水平な箇所に取り付けてください。段差がある箇所での施工は避けてください。



(3) 割付け

貼り付ける箇所に基準線を引いてください。サッシに添って施工する場合は、サッシを基準としてください。

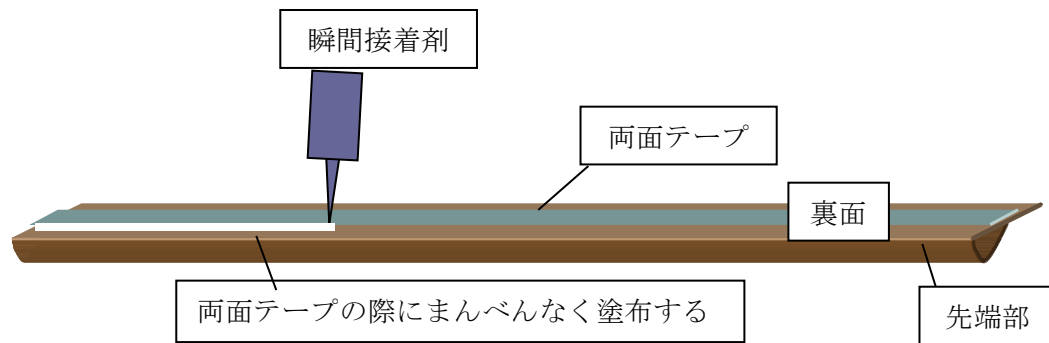


(4) 採寸及びカット

施工箇所の長さを測定しカットしてください。カットは突き付けでなく両端合わせて 1.0mm 程度 (片側 0.5mm) 透くようにカットしてください。きつく入れると、温度上昇により浮いてくる場合があります。カッターナイフでもカットできますがモールカッターを使用すると、より簡単にカットできます。

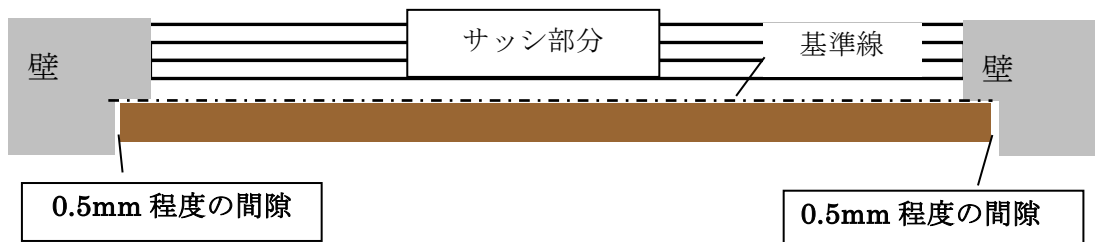
(5) 接着

下図のように先端部とテープの境界部に瞬間接着剤（ゼリー状：東リアロンアルファⅢ等）をまんべんなく塗布してください。(点付けで止めると、温度変化等による浮きや剥がれ等が発生する場合があります。)



(6) 貼り付け

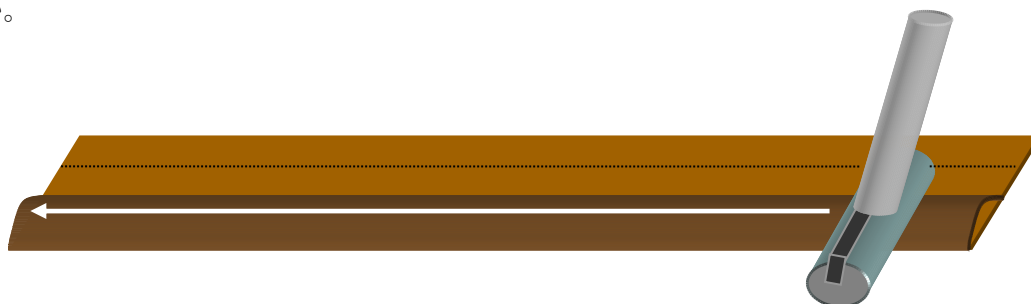
両面テープの剥離紙を剥がし、基準線に沿って貼り付けてください。



(7) 圧着

ハンドローラー等で圧着してください。圧着しなければ十分な接着強度が出ません。

※強く圧着しすぎるとLAY見切りが割れてしまうことがあるので、強く押し付け過ぎないでください。



(8) LAYフローリング・クラシアルタイルの施工

1) LAYフローリングの施工

① LAY見切りの養生

LAY見切りにLAYセメントが付着しないように必ず養生してください。

② LAYセメントの塗布 (図1参照)

LAY見切り上にLAYセメントを塗布してください。塗布は、LAY見切りの筋目の部分まで塗布してください。LAYセメントが透明になるまで待ってください。

② レイフローリングの貼り付け (図2参照)

LAYフローリングは、LAY見切りの頂点を目安に深めに差込んでください

(LAY見切り先端部から4～5mm) 差込みが浅いとへこみや割れの原因となります。また無理やり差し入れると、見切りの剥がれや浮き、あるいはタイルの浮きなどが発生します。

2) クラシアルタイルの施工

① LAY見切りの養生

LAY見切りに接着剤が付着しないように必ず養生してください。

② 接着剤の塗布 (図1 参照)

LAY見切り上に接着剤を塗布してください。塗布は、LAY見切りの筋目の部分まで塗布してください。使用する接着剤及びくし目刷毛は、クラシアルタイルの施工要領書に従ってお選び頂き、所定の待ち時間を取って施工してください。

③ クラシアルタイルの貼り付け

クラシアルタイルの施工方法は、LAYフローリングの施工方法と基本的には同じです。

クラシアルタイルは、LAY見切りの頂点を目安に深めに差込んでください。

(LAY見切り先端部から4～5mm) 差込みが浅いとへこみや割れの原因となります。

また無理やり差し入れると、見切りの剥がれや浮き、あるいはタイルの浮きなどが発生します。

※クラシアルタイルは硬質のタイルなので、切り込んだタイルを先に見切り材に差し込んでから貼り付けてください。・・・図3 参照

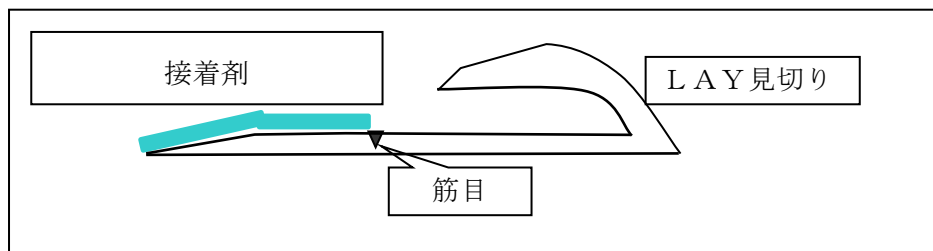


図 1

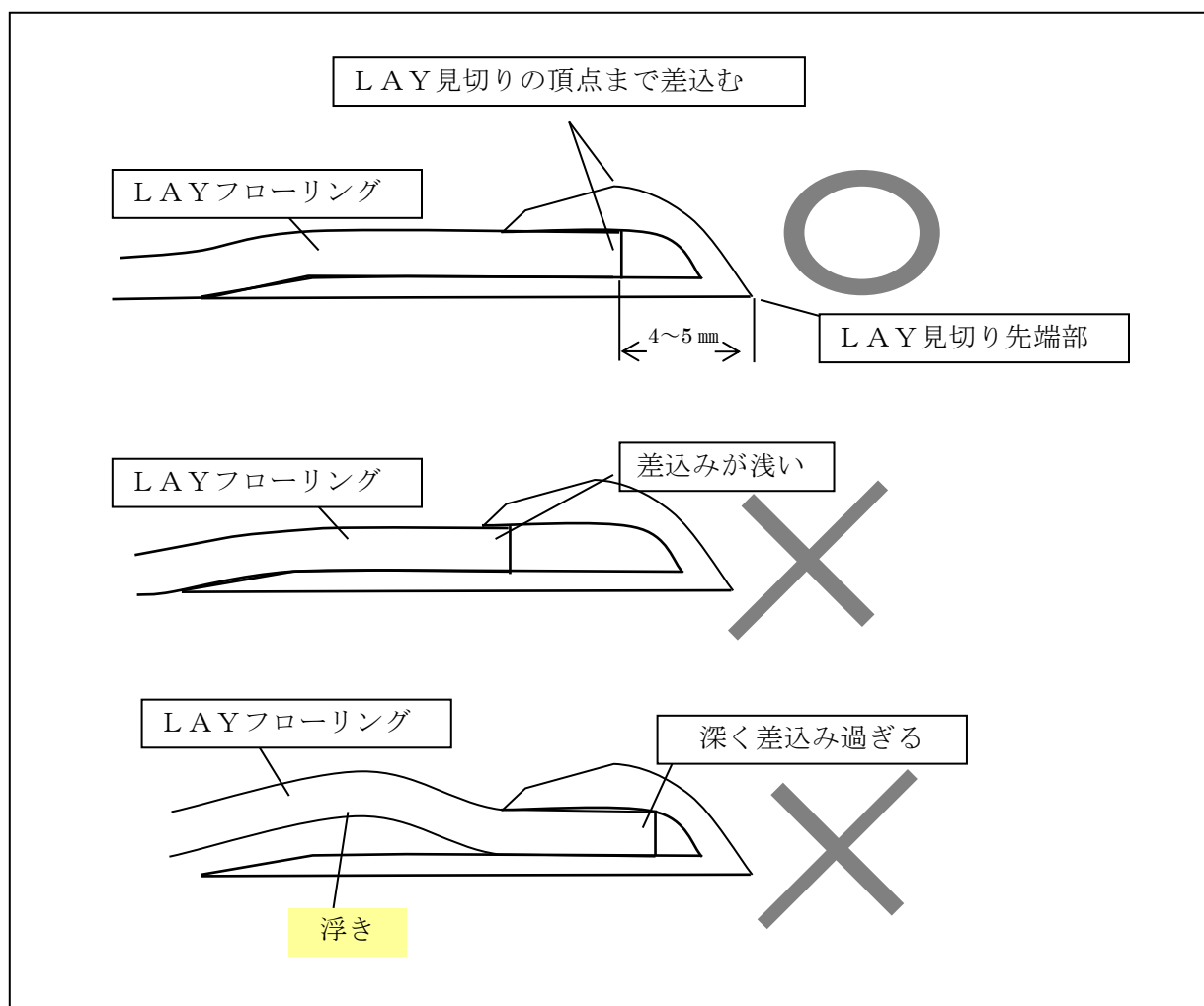


図 2

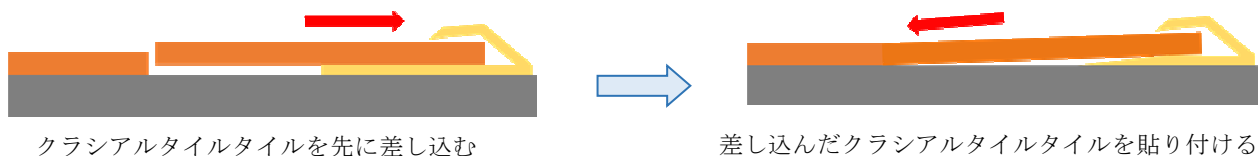


図 3

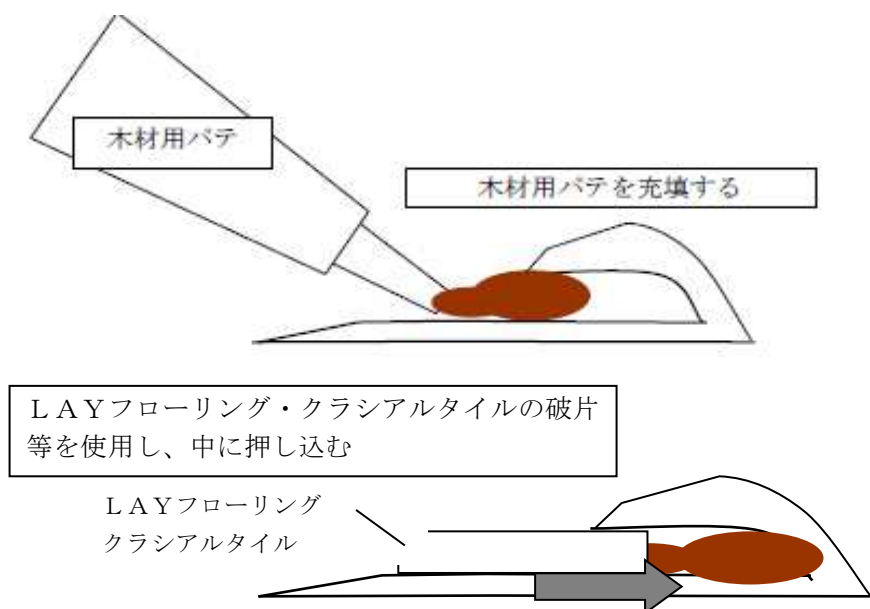
5. 歩行の多い場所に使用される場合の施工方法

LAY見切りは、歩行量の多い場所での施工には適していませんが、やむを得ず部屋間の見切り材等に使用する場合は、下記の方法で行ってください。

LAY見切りの施工手順は通常の方法と変わりありません。（4. 施工の手順（1）～（7）を参照してください。）

LAY見切り施工後、木材用パテを下図のように充填します。LAY見切りの飲み込み部分手前に充填し、LAYフローリング、クラシアルタイルの破片等で中まで押し込んでください。

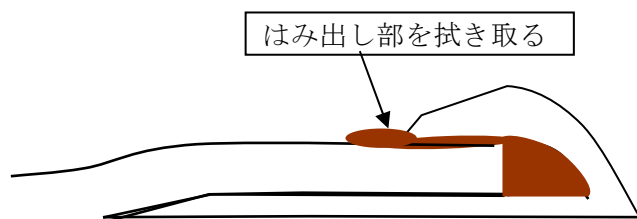
（1）隙間部の充填



注3：木材用パテはLAYフローリング・クラシアルタイルを施工した際に、はみ出す程度に充分量充填してください。木材用パテとLAY見切りの間に隙間ができると効果がありません。はみ出した木材用パテはふき取って除去してください。

（2）LAYフローリング・クラシアルタイルの施工

4. 施工の手順（8）に従ってLAY見切りに接着剤を塗布し、LAYフローリング・クラシアルタイルを施工します。施工後はみ出した木材用パテは、あとが残らないよう除去してください。



以上